a local story 岡 of 崎 まちものがたり

2016.7.1 100th ANNIVERSARY OKAZAKI 岡崎市創施行100周年

07

水と戦い、水と生きてきたまち

六名学区

MUTSUNA

岡崎市制100周年の年に巣立った六名小学校児童(6年生)

太古の縄文時代より、真宮遺跡にみるようにこの六名学区には人々が集落をつくり生活していました。長い歴史のなかで洪水や戦に見舞われながら、それを克服してきました。明治時代には農業主体から新しい産業が芽を吹き、三龍社のような岡崎を代表する会社が周辺の生活まで大きく変えてきました。2016年に岡崎市制100周年を迎える今の子ども達が、次の50年をどのように生き、変えてゆくでしょうか。200周年を迎える頃はどんな六名学区となっているでしょうか？次の世代へ繋いでゆく若者にエールを送りたい!!

a local story 岡 of 崎 まちものがたり

編集後記

六名学区は昭和55年の区画整理事業が完了した後、南部を中心に水田が宅地化し、続々と住宅やアパート、マンションが建設されました。それに伴い他地域からの人が急速に流入し、現在では全体の大半を占めています。今回の編集にあたって、委員には昔からの住民より選出し、委員の古い記憶と資料の収集をお願いすることとしました。制作にあたって資料提供をいただきました関係者の方々のご協力に深く感謝申し上げます。

編集部員一同

〔作成委員会〕 長坂秀志／岩倉貢司／天野正彦／蜂屋清水／小野健治／浅井吉晴／清水茂夫／小野盛光／安藤弘子／根木義彦／清水榮一

〔協力者〕 三龍社／齋藤家／六名小学校／竜海中学校

〔参考資料〕 岡崎市史／三龍社史／岡崎竜海風土記／六名雑記／写真でつづる岡崎あれこれ／真宮遺跡／六名小五十年／わかしゃち国体 岡崎の記録集／愛知県災害誌

〔表紙写真〕 かつて六名は「六石(むついし)」と呼ばれていたという故事から、“6つの石”と漢字の“六”をイメージしました。背景の写真は六名学区の全景で、その上に配置した6つの石をかたどった写真では、区画整理後に増加した新住民との融和と、学区民の絆を育むための様々な行事を紹介しています

岡崎市制100周年記念事業
岡崎まちものがたり　07 六名学区まちものがたり　発行　2017年1月

6 岡崎市体育館。平成6年に開催されたわかしゃち国体では、バスケットボール大会の会場になった

5 真宮遺跡の出土品。縄文時代晩期～鎌倉まで続いた複合遺跡。土器棺や甕棺などが出土された

4 南部区画整理中の六名緑道付近。熊野公園隅に区画整理の記念碑がある

3 六名尋常小学校開校。開校当時の児童数は720名、12学級。校長は浅井重次氏

2 六名～板屋町間の渡し舟。明神橋架設までは、対岸の板屋町を渡し舟が行き来していた

1 三龍社設立。中津川出身の田口百三氏が創立。岡崎を代表する製糸（絹）工場となった

六名学区 まちのなりたち

一八七四年■明治7
大庄屋齋藤廣次氏が、六名小学校の祖となる「仮義校」を開校

一八七五年■明治8
仮義校が第六十一番小学六名学校となる

一八八二年■明治15
久後崎の乙川堤防が決壊（久後崎切れ）死者43名、田畑の流失など大きな被害が出た

一八八七年■明治20
尋常小学六名学校となる

一八九六年■明治29
六名消防団が編成される

一八九七年■明治30
田口百三氏が三龍社を設立し、製糸（絹）を開始…1

一九一六年■大正5
岡崎市制施行

一九二一年■大正10
県道岡崎桜井線新設

一九二三年■大正12
明神橋（木造）架設…2

一九二五年■大正14
三島尋常小学校が明大寺山にコンクリート製校舎完成
上六名の元学校は分教場に

一九二九年■昭和4
明神橋（コンクリート造一部木造）開通

一九三〇年■昭和5
国鉄岡多線敷設反対の代替え手段により、日本初の国鉄バス誕生

一九三四年■昭和9
六名学校新設の議が起きる。候補地に北郷東、絵馬堂、現在地（現六名3丁目）が挙がる

一九三六年■昭和11
岡崎市立六名尋常小学校開校…3

一九四一年■昭和16
岡崎市六名国民学校と改称

一九四五年■昭和20
町総代を町内会長に名称変更（戦後再び町総代制に戻る）
岡崎空襲により学区周辺で学区の死者、家屋焼失多数

一九四八年■昭和23
六名学校新設の議が起きる。候補地に北郷東、絵馬堂、現在地（現六名3丁目）が挙がる

一九五七年■昭和32
岡崎市立六名尋常小学校開校…3

一九六四年■昭和39
岡崎市六名国民学校と改称

一九七〇年■昭和45
町総代を町内会長に名称変更（戦後再び町総代制に戻る）

一九七一年■昭和46
岡崎市立中央図書館が明大寺町に新築移転 区画整理区域決定

一九七二年■昭和47
岡崎市美術館が明大寺町に新築移転（図書館と併設）

一九七三年■昭和48
区画整理中に真宮遺跡が発見される…5

一九七六年■昭和51
六名南保育園開園

一九七七年■昭和52
国鉄岡多線 岡崎―新豊田間の旅客扱い開始

一九七九年■昭和54
岡崎市体育館が六名に新築オープン…6

一九八〇年■昭和55
城南小学校設立に伴い、江口、天白の学区変更

一九八三年■昭和58
熊野神社、真宮神社、市杵島神社の三社合併工事開始…7

一九八四年■昭和59
区画整理事業完成

一九八七年■昭和62
明神橋東橋開通（国道248号上下線開通）

一九八九年■平成1
六名婦人自主防災クラブ発足（20名）、六名学区市民ホーム完成

一九九一年■平成3
三龍社が生糸製造を廃止し、業種を変更

二〇〇八年■平成20
愛知環状鉄道六名駅が竣工（63年1月営業開始）…8

二〇一五年■平成27
六名学区こどもの家完成
中央市民センター完成
平成20年8月末豪雨（学区内床上・床下浸水496世帯）…9
万有製薬跡地に分譲住宅151戸、大型マンション690戸の開発計画…10
久後崎下水（雨水）地下管渠完成

9 8月末豪雨。時間最大152.5㎜の集中豪雨（岡崎市土木建設部河川課資料）

10 万有製薬跡地の大規模住宅。新しい街が生まれ、学区の世帯数、人口が急増した

7 合併前の真宮神社。三社が区画整理を機に合併。真宮神社跡地に、御神体を一殿に合祀した

8 愛環六名駅。岡多線廃止後、愛知環状鉄道として再出発。現在は市民の足になっている

「六名」の名の由来

宣化天皇（535～539年）の皇女、小石姫命がこの地を統治し、彼女は六人の皇子を産みました。その安産祈願として、六つの石が真宮神社に祀られたことから、この地を「六石」と呼ぶようになりました。いつからか「六石」が「六名」と転訛（てんか）または書き間違えられ、現在に至るといわれます。昔の書物には、この「六石郷」の範囲は、明代智（明大寺）、欠、岡、大平、初帖（八帖）、弥羽木（矢作）、蓑加波（蓑川）、尾尻、生田、馬頭、生平とあり、かなり広い範囲でした。

DATA

□人　口　13,595人
男性　6,743人
女性　6,852人
□世帯数　5,776世帯
□面　積　2.29㎢
［2016年7月1日現在］

六名マップ

かつては学区の中心に川が流れ、田園地帯が広がっていました。昭和45年から開始された区画整理後、住居が続々と建ち、人口は増加の一途をたどっています。現在は大型の商業施設やマンションが建設され、市内有数の町数、世帯数を有する学区となっています。

G 明神渡船場跡 石碑

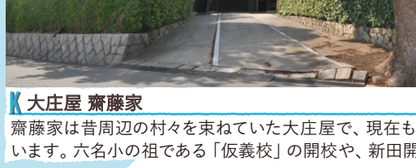
昭和4年に旧明神橋が架設されるまで、対岸の板屋町との間に、渡し舟が運行していました。現在、その渡し舟があった場所に、石碑が建っています

F 三嶋神社

1658年に伊豆三嶋の神を勧請して再興建立しました。昔ばなしでは、別名「鰯神社」とも言われ、腫物に悩む人が鰯を供える習わしがありました

H コムタウン（旧三龍社）

三龍社（→特集）の工場跡地西側の一部が、現在は大型商業施設となっており、多くの買い物客で賑わっています



I 蜂屋家

徳川16将の1人、蜂屋半之亟貞次の子孫が住んでいます。家康の将として数々の武勲をあげ、三河一向一揆の際は門徒として戦い、和睦に尽力しました（画像は左：蜂屋半之亟貞次、後：大久保忠佐、右：本多忠勝／所蔵：蜂屋清水氏）

J 齋藤家の大くろがねもち

齋藤家の敷地内には、ふるさとの名木に指定された、3本のくろがねもちがあります

K 大庄屋 齋藤家

齋藤家は昔周辺の村々を束ねていた大庄屋で、現在もその頃の面影を残しています。六名小の祖である「仮義校」の開校や、新田開発などを進めました

A 久後崎切れ三郷輪中治水碑

明治15年に久後崎の乙川堤防が決壊、明治18年に復旧工事が完了。これに伴い、記念碑が建立されました

B 芦池橋バス停

県道岡崎幸田線沿いにあるバス停。今は存在しないため池「芦池」へと通じた「芦池橋」の名前を残しています。当時の芦池橋の標柱は、竜海中学校に保存されています

芦池橋標柱

C 岡崎市美術館

かつては図書館も併設していましたが、平成20年の「りぶら」オープンにより廃止しました。現在は美術館のみがあります

E 山伏塚と柿の木

熊野神社跡（現熊野公園）にある円墳。かつて村人たちが、亡くなった修行中の山伏を埋葬しました。頂部には、ふるさとの名木に指定された柿の木があります

D 真宮遺跡（国指定史跡）

区画整理事業の工事中に発見された複合遺跡。縄文早期～鎌倉時代の住居や石器などが発掘されました。現在は、復元した遺跡が見られる公園になっています

水と戦い、水と生きてきた六名

水と戦ってきた歴史を辿る

室町〜江戸時代

かつて乙川は久後崎より南に折れ、六名の東側を羽根方面に流れ、洪水に度々見舞われていました。室町時代の1397年に六名堤ができ、洪水を防ぐことが出来ました。現在地下水路となっている江川は、昔の乙川の名残です。

江戸時代、慶長の頃に占部用水ができ、六名の用水路にも分水していました。後に今御堂堰から真宮神社東を通り、下六名、馬畷（うまなわて）への用水路である古川が、さらに中六名方面から地蔵堂へ用水路として新川が通り、新田開発が進みました。新川の水は真宮堰（せき）によって分水され、毎日定時に新川／古川に切り替えられました。新川は低い土地から高い土地へと水が流れるため、「逆さ川」とも呼ばれていました。

治水事業は
片目のきつねに
だまされて
川を掘れども
水はコンコン
と揶揄されたほどの難工事でした。

明治時代

明治15年9月30日の豪雨により、久後崎の乙川堤防が80〜90m決壊しました。水は南部へ奔流し田畑に大被害を与え、死者43名（『愛知県災害誌』による）、浸水・流水家屋多数に及びました。この際の治水事業は3年に及び、現在その記念碑が残っています。（→地図A）

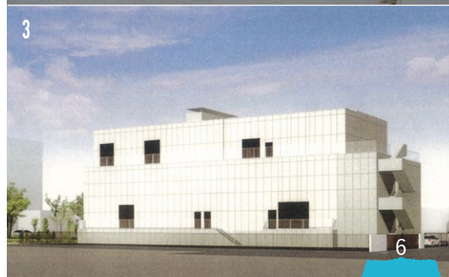
昔の乙川の流れの想像図および古川と新川の用水路図（大正9年の測図をもとにイラスト化）

昭和〜現代、そしてこれから

昭和45年からの区画整理によって水田が埋めたてられ、学区のほとんどが宅地化されましたが、集中豪雨による浸水被害が度々発生しました。

平成20年8月末豪雨では、床上・床下浸水が496世帯にも及びました。これを受けて、平成27年に、久後崎町から六名3丁目まで直径1.8m全長1266mの雨水地下管渠が完成しました。また、岡崎市体育館から乙川へ排水する六名雨水ポンプ場の建設も計画されており、浸水被害の減少が期待されています。

1 2 平成20年の豪雨の様子
3 六名雨水ポンプ場完成予想図



六名の産業

岡崎の代表的な生糸産業

三龍社

江戸〜明治時代にかけて、岡崎市周辺は「三河木綿」と呼ばれた木綿生産が盛んでした。

明治30年に中津川出身の田口百三氏が合資会社三龍社を設立して製糸（絹）を始めると、やがて養蚕と生糸・絹製品の製造が盛んとなり、三龍社は岡崎を代表する製糸会社となりました。明治36年に開発された「黄石丸」と38年の「三龍又」は革命的でありました。大正4年には大正天皇御大典記念の御料「繪服（にぎたえ）」を献上するなど、発展の一途をたどりました。付近の農地は桑畑となり、乙川をはじめ支流の山綱川、男川流域の農家のほとんどが養蚕をし、繭を三龍社に納めていました。

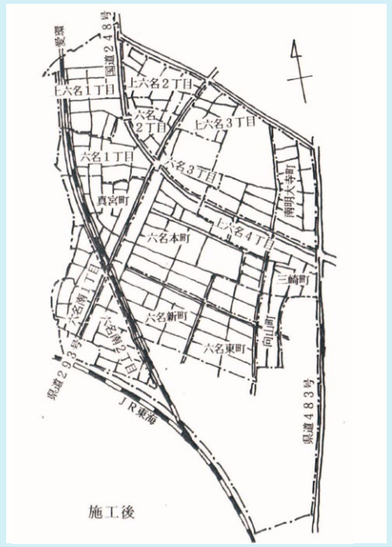
しかし、昭和の時代には化学繊維の台頭などの影響を受け、少しずつ製糸事業の縮小を余儀なくされました。59年には創業以来続けてきた生糸製造を廃業し、鉄工や機械などへ業種転換し、現在は跡地の一部が大型商業施設となり、町のにぎわいをつくっています。

製糸工場では、女性従業員が活躍した（写真は大正時代の様子／出展：三龍社史）

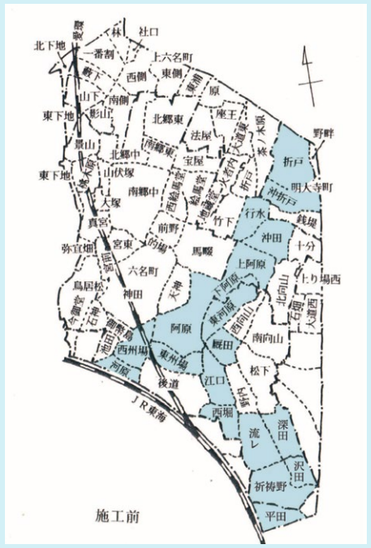
平成3年頃の三龍社工場（出展：三龍社史）

区画整理以前の、「水」にまつわる地名

この地域には、「阿原（あわら）」、「行水（ぎょうずい）」、「洲揚（すあげ）」、「沢田」、「流レ」など、川や水に影響を受けた土地の様子を物語る小字名がありました。しかし昭和45年から着手された南部区画整理事業により、学区内の町名は従来の小字の一部を残して変更されました。



区画整理後の六名学区南部の町名



区画整理前の六名学区南部の小字

（出展：岡崎竜海風土記）